

【熊本 S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 下顎右側第一大臼歯欠損に対しインプラント治療を行った一症例

*A Case with the Right Mandibular First Molar Missing with a Dental Implant
Restoration* Hatta Dental Office Tomoyuki Hatta

演者名 八田知之

日 付 2017年11月28日

Key Words

1. *Implant-supported single crown*
2. *Three-unite tooth-supported fixed dental protheses*

従来から1歯欠損に対する補綴治療法としてブリッジあるいは可撤性義歯が用いられてきた。しかし、可撤性義歯は機能あるいは審美性において患者の満足が得られないことが多く、またブリッジでは大幅な歯質の切削が必要な場合もある。

一方、インプラント治療による補綴は隣在歯に影響を及ぼさず、高い咀嚼機能回復が得られる点で、有効な治療法である。

今回、下顎右側第一大臼歯欠損に対し、インプラント治療を行い良好な結果を得たため報告する。

症例

患者は61歳男性。右下の歯がとれたことを主訴に2011年11月23日に受診。下顎右側第一大臼歯歯根破折の診断のもと、同歯を抜歯した。欠損に対し患者はインプラント治療を選択したため2012年5月12日インプラント埋入及びGBR施行。2012年12月8日に最終補綴物をセットしメンテナンスに移行している。単独歯欠損にブリッジを適用するか、インプラントで補綴するかの判断についてWaltonは両隣在歯が無髄歯である場合はブリッジの選択もあると述べている。本症例はそれに該当するが、一方、Priestは単独歯欠損のインプラントは両隣在歯の負担を軽減し、破損したブリッジ除去後の補綴にインプラントを適用することを推奨している。本症例は患者の希望もあり、インプラント補綴を選択したことで、両隣在歯に過重負担を避けることができた。

中間歯1歯欠損の際、three-unit-bridgeで修復するか、単独植立インプラントで修復するか悩むことが多いと思います。若干の文献的考察を踏まえ、検証しました。